



山崎中学校だより

令和7年3月25日 3月号

町田市立山崎中学校

校長 栗原 建次

〒195-0074 町田市山崎町1445

TEL 042-793-1021

<http://www.machida-tyo.ed.jp/j-yamasaki/>

「Daily Yamasaki」更新中



「可能性を信じて、いまを生きる」

～第45回卒業式 校長式辞より

栗原 建次

一雨ごとに暖かさが増し、ここ山崎の丘の上を渡る風に春の薫りが感じられる季節となってまいりました。季節は忘れることなく私たちに希望の春を届けてくれています。

本日は保護者の皆様をはじめとするご来賓のご臨席を賜り、ここに第45回卒業証書授与式を開式できますことに心から感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました104名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、年度途中に病気でご逝去された生徒1名を含めると105名の生徒の皆さんが中学校3年間を終了したことになります。私たち教職員一同、皆さんの輝かしい中学校生活を振り返るとともに、新たな門出を心からお祝いいたします。また、ご卒業される生徒の保護者の皆様には、これまでお子様の成長を見守ってこられて、本日、晴れの日をお迎えになったこと感慨もひとしおと思います。心からお慶び申し上げます。

さて卒業生の皆さん、皆さんの入学式で私から皆さんへお話ししたメッセージを覚えていますか。メッセージは、日本の電機メーカーで現在のパナソニック株式会社を築き上げた松下幸之助氏の「人間は磨けば光るダイヤモンドの原石のようなもの」という言葉についてです。「人間も、このダイヤモンドの原石のように、見た目には光り輝くものかどうか分からない場合もあるけれど、磨けば必ず光る本質をそれぞれにもっている。」という内容です。

卒業生の皆さん、本校で生活した3年間で、生徒の皆さん一人一人の体や心の中にダイヤモンドの原石と同じように、まだ磨かれていない「個性や能力」という原石を持っていることに気づき、そして、努力して磨きはじめることができたでしょうか。

皆さんは、本日、「中学校卒業」という一つの区切りを迎えましたが、自分磨きの旅は決して終わりがありません。人生は常に、皆さんの新たな挑戦と学びの機会を準備しています。私たちに重要なのは、一人ひとりに異なる 生きるために乗り越えるべき「ハードル=課題」を受け入れ、挑戦を恐れずに失敗から学び、自分を磨き成長し続けるということです。自身の持つ良さを磨き、可能性を信じて未来を切り拓く努力を継続してください。

さて、本日は、新たな門出に、もう一つメッセージをお送りしたいと思います。

昨年11月に日本を代表する詩人の谷川俊太郎さんが92歳でお亡くなりになりました。皆さんが合唱祭で歌った「この気持ちはなんだろう」の一節からスタートする「春に」や、「信じることに理由はない」と強く訴える「信じる」という曲は谷川俊太郎さんの作詞で、皆さんもその言葉に触れたことがあった詩人です。小学生の教科書にも掲載されている谷川さんの有名な詩「生きる」を改めて紹介したいと思います。

「生きる」 谷川俊太郎

生きている ということ
それは のどがかわく ということ
ふっと 或るメロディを思い出す ということ
あなたと手をつなぐこと
生きている ということ
それは ミニスカート
それは ヨハン・シュトラウス
それは アルプス
そして かくされた悪を注意深くこばむこと

いま 生きている ということ
木漏れ日がまぶしい ということ
くしゃみをする事
いま 生きている ということ
それは プラネタリウム
それは ピカソ
すべての美しいものに出会う ということ

生きている ということ
泣ける ということ
怒れる ということ

いま生きている ということ
笑える ということ
自由 ということ

生きている ということ
いま遠くで犬が吠える ということ
いまどこかで産声があがる ということ
いまぶらんこがゆれている ということ

いま 生きている ということ
いま 地球が廻っている ということ
いま どこかで兵士が傷つく ということ
いま いまがすぎてゆくこと

生きている ということ
鳥ははばたく ということ
かたつむりは はう ということ
あなたの手のぬくみ

いま 生きている ということ
海はとどろく ということ
人は愛する ということ
いのち ということ

この詩の中で谷川俊太郎さんは、生きているということを日常の中の些細な出来事や感覚、風景を通じて語っています。「のどがかわく」「木もれ陽がまぶしい」といった感覚は、日々の生活の中では当たり前前のものに思えるかもしれませんが、しかし、それこそが生きている証であり、豊かな瞬間なのです。

思うように行かずに心が折れそうになるときもあるでしょう。そんなとき、この詩にある日常の中の些細な出来事に喜んだり思い悩んだりする自分自身のその感覚、周りに見える風景等、あなたが感じた一瞬一瞬に価値があったこと、生きている実感を大切に心に刻んでください。

また、辛い日々の中にも、誰かと手をつなぐ温もりや、ふっと微笑むことができる瞬間があります。「人に支えられ、人を支えること」を大切に未来に向かって前向きに歩みを進めて欲しいと思います。さらに、人は良いところも、悪いところも持っています。「もういいや」と投げやりになる自分自身や、成長とともにさらに複雑になる社会の中で自立していくためには、自分自身の心の中や、社会の中に潜む「かくされた悪を注意深くこばむこと」も大切です。谷川さんは「いまいまが過ぎてゆくこと」と詠むことで、生きるということは、今の瞬間が次の瞬間へと続いていると伝えています。「泣ける」「怒れる」という感情も、次の瞬間には「笑える」「人とつながる喜び」に変化することもあることは、皆さんも体験したのではないのでしょうか、生きることは一つ一つの出来事が連続して行くのです。生きることは、楽しめと困難が共存しています。しかし、どれだけ困難であっても、その中に、自分自身が取り組んだことに、意味や価値を見出し、より良く充実した毎日を過ごすことができるよう、心の深いところにある皆さんの大切なものや願いに触れて、「やれば(成長)できる」と可能性を信じて乗り越えていって欲しいと思います。

最後になりますが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。また、この3年間、本校の教育活動に深いご理解とご支援をいただきましてありがとうございました。お子様は、ご覧の通り、たくましく成長されました。しかし、これからの道のりも、なお遠いものです。今後も励ましとご指導を賜りますようお願いいたします。

それでは、卒業生の皆さん、皆さんの生きている「いま」は、かけがえのないものです。授かった命を大切に光り輝くよう磨き、「前途洋々」歩みを進められることを祈念し、式辞といたします。卒業おめでとう。



★第45回卒業式★

3月19日(水)、送り出す寂しさを表すような名残雪のふる朝、104名の卒業生が巣立ちの時を迎えました。皆さんは、自分たちの手で学校生活を作っていくことを楽しみながらいろいろなことにチャレンジした学年でした。1年生の時の皆さんは、はにかみながら慎重に新しい生活に慣れようと一つ一つ緊張して向き合う様子だったことが思い出されます。どんな時も素直で真面目なその姿は、いつしか自信をつけ頼もしい3年生の背中として後輩たちに示し山崎中学校を牽引する存在となりました。その姿を、後輩たちは忘れずにつなげていってくれることともいいます。卒業式には、今年も、2年が参加することができ、卒業生の最後の花道に立ち合うことができました。全体合唱「あなたへ」「友へ旅立ちの時～」「3月9日」は、別れの言葉とともにいつまでも心に残る歌声となりました。最後は、保護者の皆様とともに体育館で思い出に浸りながら楽しいひと時を過ごし、笑顔で山崎中学校を巣立っていきました。新しいステージでのご活躍を願うとともに、皆さんの人生が健康で幸せいっぱいでありますようにお祈りしております。

「令和6年度 修了式」

校長 栗原 建次

いよいよ中学校1年間の締めくくりである修了式を迎えました。

お渡しする修了証から、1年間の皆さんの頑張りと努力を振り返り、自身がこの1年間、どれだけ努力し成長したのかを確かめてください。

4月から新しい学年になり、1年生は先輩に、2年生は最上級生になります。生徒の皆さんは、その準備はできていますか。春休みには、次の学年への希望と決意について考え、新たな学年での具体的な目標を掲げて新年度をスタートさせていきましょう。

さて、新たな年度を迎えるにあたって、進級して何が変わるのか考えてみましょう。私は、一番大きく変わるの「責任」だと思います。進級することは、後輩ができるということです。そして、後輩に、山崎中の伝統を引き継ぐとともに、後輩の先頭に立ち、より充実した山崎中学校を目指して導いて行く役割を担うことになるのです。そして、導いて行くために、どこに導いて行くのか、目的地=目標を定め、後輩が皆ついてきているか見守るという、責任を持つことになります。

先週、卒業生の思いが伝わる言葉や合唱を共有した感動の卒業式が終了し、皆さんは、3年生からバトンを渡されました。卒業した3年生から引き継いだバトンをしっかり受け取り繋いでいくことは、後輩の役割で「責任」の一つなのです。

「責任」を全うするためには、まずは「自覚」が必要だと思います。誰が引き継ぐのか、「私ではない」と考えるのではなく、皆さんひとり一人が、自身で、皆で、何ができるのか、受け止め、考え、取り組もうとする「自覚」が必要となるのです。後輩を先導する先輩として、どう立ち振る舞うのか、如何にして伝統を引き継ぐのか、自身の良さを発揮するのか考えてほしいと思います。また、自分の弱点にも目を向けて改善することも必要です。そのために、より良く過ごしやすい学校生活を目指し、新たな一年を充実させるために、決意と責任を持ってほしいと思います。

新たな年度のスタートの際に、必要だと思うことをアドバイスします。

- ・ 主体的に行動しよう。「仲間が意欲的に行動できるよう」。ファーストペンギンであれ!
- ・ 自分の目標を達成するために「流されない心をもつこと」。努力を継続すること!
- ・ 時間には限りがあります。一年間はあっという間に過ぎてしまいます。仲間と同じ時間を過ごすためには「時間を守ること。タイムマネジメント」を大切にしてください。

山崎中を担う、新2年生、3年生の皆さん、一人ひとりの「責任」を自覚し全うすることで、自身を成長させ、思いやりが溢れる温かい学校を創っていきましょう。「やれば(成長)できる」。失敗も成功も全てが、皆さんの成長につながります。

春休みは、2週間と短いですが、2週間後には、責任と決意を持ち、新年度をスタートさせていきましょう。

活動の成果

●小林一茶第24回 全国小中学生俳句大会入選●

長野県信濃町教育委員会と小林一茶記念館が毎年開催している俳句大会に、8組全員が挑戦しました。

【入選】

おめでとうございます!

●第74回東京都公立学校展覧会出品●

【美術】「自画像の色面構成」 「絵文字のデザイン」

【書道】

●パソコン部2月 検定結果●

文章入力スピード検定（日本語）準2級 2年
文章入力スピード検定（日本語）5級 2年
情報デザイン検定3級 1年

◎保護者の皆様へ

令和6年度の全教育課程が本日無事終了いたしました。この一年も子どもたちは積極的に学校生活のさまざまな場面で、たくさんの豊かな成長の姿を見せてくれたことを大変うれしく思います。ひとえに、いつも学校教育にご理解とご協力を惜しまず支えてくださっている保護者の皆様のおかげだと心より感謝申し上げます。新年度も教職員一同、子どもたちの心に寄り添いより良い学校教育を目指して尽力してまいりますので、引き続きお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

☆4月の主な予定☆

日	月	火	水	木	金	土
30	31	4/1	2	3	4 春季休業日終	5
6	7 始業式 入学式準備	8 第47回 入学式	9 特別時間割始 午前授業始	10 身体計測 午前授業	11 午前授業終	12
13	14 弁当 特別時間割終 あいさつキャン ペン 新入生歓迎会	15 弁当 あいさつキャン ペン 学校公開	16 午前授業 あいさつキャン ペン 学校公開	17 給食始 あいさつキャン ペン 学校公開 3年全国学力調査 3年・8組内科 検診	18 あいさつキャン ペン 学校公開 5時間授業 歯科検診 保護者会	19
20	21	22 議案書討議 心のアンケート	23 眼科検診	24 2年内科検診	25 8組校外学習	26
27	28	29 昭和の日	30 尿検査1次	5/1 1年内科検診 生徒総会リハー サル	5/2	5/3 憲法記念日
5/4 みどりの日	5/5 こどもの日	5/6 振替休日	5/7 教育実習始	5/8 生徒総会	5/9 5時間授業 部活動保護 者説明会	5/10

